

平成18年
9月28日

病害虫発生予報 10月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

5月29日から全ての農作物に残留農薬基準が設定されました！！
薬剤散布の際は周囲への飛散に十分注意しましょう

< 目次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病	1
抑制トマト：タバココナジラミ類	1
抑制キュウリ：褐斑病	1
抑制キュウリ：オンシツコナジラミ	2
抑制ピーマン：斑点病	2
秋冬ハクサイ：軟腐病	2
共通害虫：ハスモンヨトウ，オオタバコガ	3

【その他の病害虫】

ダイズ，イチゴ，抑制ピーマン，秋冬ハクサイ，冬レタス，秋冬ネギ，
アブラナ科野菜共通，カキ・リンゴ，ブドウ

・ 病害虫ミニ情報

水田における収穫後の管理作業について	6
農薬登録速報(8月)の概要	7

・ 病害虫資料室

今月号の病害虫から（レタスの菌核病，腐敗病）	8
------------------------	---

・ 今月の気象予報

・ テレホンサービス

029(226)5321, 6131

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準，注意事項等を確認してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，発病葉率，発生地点率は平年並である。

9月上，中旬の気象条件は降水量で平年並から多く，日照時間も平年並から少ない等，感染を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

ビニール被覆後に発生が多くなるため，被覆前後の防除を徹底する。

薬剤散布は，十分な薬量で葉裏にもよく付着するよう丁寧に行う。

抑制トマト

1. タバココナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，寄生葉率，発生地点率とも平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並が高いと予想され，ハウス内は発生を助長する温度条件になる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると，防除が困難となる。また本種は，トマト黄化葉巻病を媒介し，また果実の着色異常を引き起こすため，発生したハウスでは防除を徹底する。（平成18年9月22日発表の病害虫発生予察特殊報第3号参照）

本種は葉裏に寄生するため，薬液は下方から吹き上げるように散布するなど，葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

抑制キュウリ

1. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

(抑制キュウリ 褐斑病 続き)

[予報の根拠]

9月下旬現在，発生地点率は平年より高く，発病葉率も平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

高温多湿条件で発生しやすくなるので，換気して除湿に努める。

発生初期の防除を徹底する。また，薬剤散布は，かけむらのないよう丁寧に行う。

2．オンシツコナジラミ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，寄生葉率，発生地点率ともに平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，ハウス内は発生を助長する温度条件になる。

[防除上注意すべき事項]

本種によりすす症状が引き起こされるため，防除を徹底する。

本種は葉裏に寄生するため，薬液は下方から吹き上げるように散布するなど，葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

抑制ピーマン

1．斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，発生地点率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

多湿条件で発生しやすくなるので，換気して除湿に努める。

発生初期の防除を徹底する。また，薬剤散布は，かけむらのないよう丁寧に行う。

秋冬ハクサイ

1．軟腐病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並～やや多い	県下全域

(秋冬ハクサイ 軟腐病 続き)

[予報の根拠]

9月下旬現在，発病株率は平年並である。

9月下旬にまとまった降雨があり，本病の発生を助長する条件であった。

[防除上注意すべき事項]

風雨が多いと発生が助長されるので，台風等の強風を伴う降雨の後には，防除を徹底する。

薬剤散布は，薬液が葉裏や株元にも届くよう丁寧に行う。

本病の病原菌は傷口から感染するため，管理作業によって葉を折るなど，傷をつけないようにする。特に，降雨前後の作業時には十分注意する。

地下水位の高い圃場や排水不良の圃場では，排水対策を十分に行い，過湿状態にならないよう注意する。

共通害虫

1. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや多い。

9月下旬現在，イチゴにおける被害株率は平年より高く，レタスにおける寄生幼虫数は平年並である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

老齢幼虫になると，薬剤が効きにくくなるため，圃場をよく見回り，若齢幼虫のうちに防除を行う。特に，ハクサイ，レタス等では，結球内に入られるとその後の防除が困難になるので，初期の防除を徹底する。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では，出入り口や開口部に防虫ネットを張り，成虫の侵入防止に努める。

2. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

9月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は水戸市で平年並である。

(共通害虫 オオタバコガ 続き)

9月下旬現在，抑制トマトにおける被害株率は平年よりやや高く，レタス，イチゴにおける寄生幼虫数は平年並である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。齢期が進むにしたがって薬剤の効果は低くなり，中齢幼虫になると果実や結球内に食入するため，食入前の若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では，出入り口や開口部に防虫ネットを張り，成虫の侵入防止に努める。

薬剤散布の際は，周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意して行うこと。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ダイズ	紫斑病	発生量：平年並	適期収穫に努め，収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。
イチゴ	じゃのめ病	発生量：やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。多湿条件で発生しやすくなるので，換気して除湿に努める。
	輪斑病	発生量：やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
抑制ピーマン	タバココナジラミ類	発生量：やや多い	9月下旬現在，幼虫，蛹及び成虫の発生を認めた。幼虫，蛹の平均寄生葉率は8.9%である。すす症状や果実に着色異常を引き起こすため，防除を徹底する。特に芽かき等で生じた茎葉残渣は，ビニール袋等に入れ密封し，腐敗させてから処分する等適切に処理する。
	アザミウマ類	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
ハクサイ 秋冬	べと病	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
	白斑病	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
冬レタス	菌核病	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。葉の基部を観察し，発生を認めた場合は初期防除を徹底する。（p.8 病害虫資料室参照）
	腐敗病	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。結球開始期に降雨が続くと発生しやすいので，初期防除を徹底する。（p.8 病害虫資料室参照）
秋冬ネギ	べと病	発生量：やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	さび病	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
	黒斑病	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	9月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量：平年並	9月下旬現在，平年並の発生である。
野菜共通 アブラナ科	コナガ	発生量：平年並 ～やや少ない	9月下旬現在，フェロモントラップ（八千代町）への誘殺数は平年並～やや少ない。また，ハクサイにおける寄生幼虫数は平年よりやや少ない。
リンゴ・カキ	果樹カメムシ類	発生量：平年並	9月下旬現在，予察灯への誘殺数は，平年並である。果樹園内でカメムシ類を発見した場合，早急に防除を行う。薬剤の収穫前日数には十分注意する。
ブドウ	晩腐病	-	本年は果実での発病が平年より多かったので，収穫後は，巻きづる等を集めて適正に処理する。
	べと病	-	本年は年間を通して発病が多かったので，収穫後の防除を徹底し，落葉は集めて適正に処理する。

水田における収穫後の管理作業について

病害虫の防除は、薬剤に頼るだけではなく、適切な栽培管理を行い、病害虫の発生しにくい環境を整えておくことが大切です。収穫後のほ場管理等も来年の病害虫防除のためには重要な作業です。

10月中旬に稲ワラのすきこみ

気象変動に左右されない米作りには「健全な土づくり」が大切です。これは、病害虫に強いイネをつくる上でも重要です。また、健全な土づくりのための稲ワラのすきこみは、病害虫そのものを抑制する効果も期待できます。

例えば、いもち病菌は、種子や被害ワラで越冬し、翌年の発生源となりますが、腐熟、分解した稲ワラでいもち病菌は越冬できません。また、黄萎病は、罹病したイネの再生芽（ひこばえ）を、越冬前のツマグロヨコバイが吸汁して病原体を獲得し、虫の体内で病原が越冬して翌年の発生源となります。すきこみは、病原体を持ったイネの再生芽を枯死させ、ツマグロヨコバイの越冬場所となるイネ科雑草を減らします。さらに、ニカメイガは、一般的に幼虫が稲ワラの中で越冬するため、越冬幼虫を減らすことができます。このように稲ワラのすき込みは、本田で越冬する病害虫を全般的に抑制する効果が期待できます。土中での分解が進むよう、収穫後速やかに行うことが大切です。

また、畦畔の雑草や枯草は、縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカや、一部の斑点米カメムシ類の越冬場所となるため、畦畔等の雑草や枯草も適正に処理してください。

適正な施肥量の把握，栽培方法の検証

いもち病や紋枯病は、葉色が濃く、茎数が多いと、発生が助長されます（図）。病害虫の発生が多かった場合は、今年の稲作を振り返り、中干し等の栽培管理が適切であったかどうか検討してください。また、土壌診断を行って肥沃度に応じた施肥量を把握してください。適正な栽植密度や植付本数となるよう、移植機の整備，調整をするとともに、苗箱への播種量も調整しておきましょう。

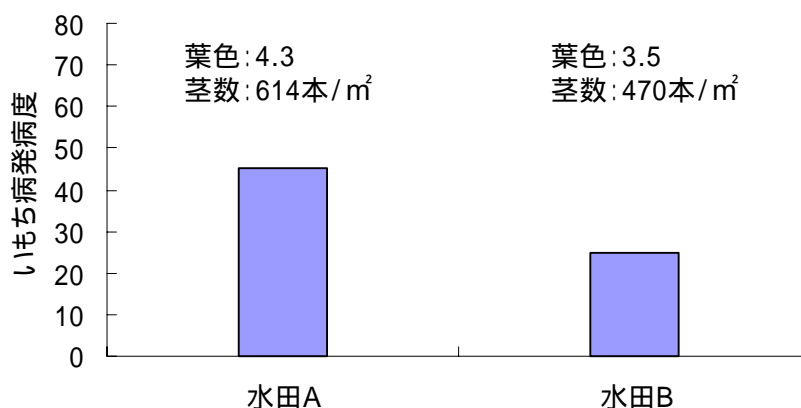


図 イネの生育状況といもち病の発病程度
(H17年7月上旬調査，品種，防除体系はA,Bとも同じ)

農薬登録速報（8月）の概要

平成18年8月期間中(8/1~8/31)に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規> BASF嵐ガゼット粒剤, BASF嵐ダントツ箱粒剤, STダコニール1000, 住友化学デラウストレボンエアー, 嵐ガゼット粒剤, 嵐ダントツ箱粒剤, 嵐プリンス箱粒剤10, 嵐プリンス箱粒剤6, 嵐箱粒剤, 嵐粒剤
変更> DC油剤, D-D92, MR・ジョーカーEW, アディオン乳剤, アリエッティ水和剤, アルバリン粒剤, アルバリン顆粒水溶剤, エコホープ, エコホープドライ, カルモック, サバクトップ, サンケイアディオン乳剤, サンケイテロン92, スタークル粒剤, スタークル顆粒水溶剤, スピノエース箱粒剤, ダントツ粉剤DL, ツインパックフロアブル, テロン92, ネキリトンK, バイデートL粒剤, パッチコロン水和剤, パルノックスフロアブル, ホクコーMR・ジョーカーEW, ホクコーアディオン乳剤, ホクコースタークル粒剤, ホクコースタークル顆粒水溶剤, モリエートSC, ヤシマアディオン乳剤, ランネット45DF, リドミル粒剤2, 旭D-D92, 協友ダントツ粉剤DL, 三井東圧アルバリン粒剤, 三井東圧アルバリン顆粒水溶剤, 三共MR・ジョーカーEW, 三共アディオン乳剤, 石原MR・ジョーカーEW, 日曹アリエッティ水和剤, 武田MR・ジョーカーEW

除草剤等

新規> テッティフロアブル, プラスワン1キロ粒剤75, ホクコープラスワン1キロ粒剤75
変更> JAパットフルエースL250グラム, SDSイッテツジャンボ, アグロスクリンチャー1キロ粒剤, イッテツジャンボ, クサカリテイオー1キロ粒剤75, クサトローゼ, グリホキング, クリンチャー1キロ粒剤, シバゲン水和剤, デュボンパットフルエースL250グラム, バイエルイノーバアップ1キロ粒剤75, パットフルエースL250グラム, ビッグシュアエース1キロ粒剤, プリグロックスL, ホーネスト乳剤, ホクコークリンチャー1キロ粒剤, マイゼット, 協友イッテツジャンボ, 三井東圧クサカリテイオー1キロ粒剤75, 日産クリンチャー1キロ粒剤

植調剤等

変更> デシカン乳剤

展着剤

変更> ハイテンパワー

失効農薬

アрилメート乳剤, キーパーメイト水和剤, クミアイヒノバイジット乳剤, サニーフィールド粒剤, シオノギ・ダイсед水和剤, トモノスミチオン水和剤40, ネビロス1キロ粒剤, ネビロスジャンボ,

ノバルティスジャストミート顆粒水和剤，
ホップメート粉剤DL，ヤシマキーパーメイト水和剤，
ヤシマプレカット乳剤，ラブサイド水和剤，
井筒屋ディプレックス乳剤，永光ネビロス1キロ粒剤，
永光ネビロスジャンボ，日産スミチオン水和剤40，
武田リンバー1キロ粒剤，理研ロブドー水和剤

農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意願います。

・病害虫資料室

病害虫防除所ホームページ上で、写真をご覧いただけます。

レタス

菌核病

病原菌：*Sclerotinia sclerotiorum* (糸状菌)

発生生態と被害：はじめ地際の茎や葉の基部に水浸状の病斑が現れる。やがて淡褐色水浸状となり、地際の茎あるいは葉の基部は軟化腐敗し、下葉から順次しおれてくる。腐敗した株の葉の基部などには、白色綿状のかびが生じ、さらに進展するとそこにネズミの糞に似た黒色の菌核を作る。

病原菌の発育適温は15～20℃で、25℃以上では発育は抑制される。秋から冬にかけて、平均気温が15～20℃になってきた頃に発生しやすい。

防除のポイント：発生を認めた場合は、菌核が形成される前に発病株を抜き取り、防除を徹底する。収穫後は、菌核を圃場に残さないよう被害残さを圃場外へ持ち出し、適正に処分する。

写真1：被害株

写真2：多発生圃場

腐敗病

病原菌：*Pseudomonas cichorii* (細菌)

Pseudomonas marginalis pv. *marginalis* (細菌)

Pseudomonas viridiflava (細菌)

発生生態と被害：本病の病原細菌は上記の3種あり、病徴は2つの型に分かれる。による場合は結球葉の外側に黒褐色、不整形の病斑を生じ、同様の症状が内部の数枚の葉にも及ぶ。病勢の進展は比較的早い。病斑は葉肉部だけが黒変し、表皮が腐らないため、表面が光って見える。

による場合は、葉縁あるいは凍霜害を受けた部分から発病し、暗緑色または暗褐色水浸状に腐敗し、乾くと褐色の紙のようになる。また、本病による腐敗は、悪臭を伴わない。

防除のポイント：薬剤散布は、結球始期から重点的に行う。また、台風などによる風雨の後は、できるだけ早く防除を行う。春レタスなど冬季に栽培する作型では、トンネル内が高温多湿にならないよう、日中は換気を十分に行う。

写真3：被害株

写真4：多発生圃場

．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 9月23日から10月22日)

気象庁 (9月22日 発表)

< 向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並でしょう。日照時間は平年並でしょう。

< 1週目の予報 > 9月23日(土曜日)から9月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か低い

< 2週目の予報 > 9月30日(土曜日)から10月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

< 3週目から4週目の予報 > 10月7日(土曜日)から10月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か高い

．テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321, 6131

10月上旬 露地野菜の病害虫及び麦類の病害対策について

10月下旬 果樹の秋季防除について

11月上旬 施設野菜病害虫の防除対策について